

乳幼児教育の質の向上ニュースレター

「学びを深める 学びをつなぐ」保幼小架け橋活動を紹介します！

春から夏にかけて、各協力園校では、「学びを深める 学びをつなぐ架け橋活動」に取り組んでいただきました。参観させていただいた園校では、事前の打ち合わせ、事後の振り返りを大切にして、充実のための4つの視点を踏まえ、こどもたちが自己発揮できる活動としていただいていた。一部を簡単に紹介します。

中舞鶴幼稚園、中保育所、中舞鶴小学校 架け橋活動で期待するこどもの姿

5歳児：相手の思いを知ったり、自分の思いや考えを伝えたりしながら意欲的に活動しようとする。

1年生：自分の考えたことを伝えたり、相手の考えを受け入れたりして、楽しみながら粘り強く活動しようとする。

1回目

中舞鶴幼稚園、中保育所、中舞鶴小学校の架け橋活動は、中保育所の5歳児が色水遊びをよくしていることをきっかけに、中保育所で色水遊びを通して「何をしたら、こんな色水ができたか」などの気づきを言葉で伝える活動をしようと計画をされました。また、1年間活動するグループも決め、それぞれの園校でグループ名にちなんだバッジなどを事前に作り、期待を膨らませようと相談されました。

1回目は雨天のため延期となり、場所も中舞鶴小学校体育館の周囲に変更になりましたが、どんなものがあればよいかを、こども達と相談され、たくさん草花の材料、すり鉢とすりこぎ棒、鍋やボール、ビニール袋、小さいチャック付きのビニール袋…といった道具が用意されていました。

今年度初めての顔合わせなので、こどもが自分のグループを意識できるように、保育者・教師は、「グループの人に聞いてみたら」などの声かけをされていました。初めて色水遊びをすることも達もいましたが、手慣れた様子で色水づくりをしている友達の様子を見ながら、自分もしてみようとチャレンジする姿が見られました。

場所もそれぞれに相談して決め、途中で山の方へ草花を採りに行くグループもありました。

「ふりかえり」では、色水遊びが楽しかった、違う園の子や1年生と一緒に遊んで楽しかったなどの感想がどの園校のこども達からもたくさん聞かれました。

その後、保育者から、色水遊びで気付いたことをたずねられると、「さくらのみをつかっていたら、むらさきいろになった」と実物を見せながら、一生懸命に伝える姿が見られました。聞いていたこども達は、食い入るように見ていました。

短時間で活動に取り組んだこともあり、色水に関わる気付きの伝え合いは少なかったため、2回目の色水遊びでは、色水に関わる気づきがたくさん伝えられるように、「はじまりのかい」と「ふりかえり」を工夫しようと事後の振り返りで相談されました。



2回目

2回目の水遊びは、グループの友達の顔も分かり、すぐにグループに分かれました。今日の目当てを聞いたあと、1年生の育てた朝顔も本人の了解を得て色水遊びに使ってよいことになり、一緒に朝顔の花を摘みにいく姿も見られました。

やり方が分かり、「このはなでピンクのいろみずがつくれそう」「このいろみずとこのいろみずをまぜたら、きれいないろになる」など予想しながら遊ぶ姿も見られました。

黄色い色水を作ろうと黄色い花をつぶすのですが、なかなか色が出なくて苦労している姿も見られました。保育者が「どうしたらいいかな」と言葉がけをされ、グループで「もっとつよくおししたらいい」「ごりごりしたらいい」と考えて、やってみる姿も見られました。色を確かめようと、ペットボトルに移し替える姿も見られました。



「ふりかえり」は、グループ内で「どんな色水ができたのか。どうやって作ったのか」を伝え合い、グループの代表が全体の中で伝えることにされました。保育者や教師とのやり取りをしながら、自分がしたことや気づいたことを自分の言葉で伝える姿が見られました。集中して、よく聞く姿も見られました。



あさがおとひまわりをいれたら、できました。こうやって、そこにぎゅうっとおしつけて、こんないろになりました。（使った道具も持ってきて、やり方も伝えました。）

いろんなおはなでつくりました。あさがおといろんなはな。ふくろで、もみもみした。

いろんないろをまぜたら、おちゃのようになった。ともだちからもらった。（「お花出したら見えるかな？」というアドバイスで、コップに色水を移し替えてよく見えるようになりました。）

グッドポイント

興味・関心：よく遊んでいる子も、初めてする子もいたが、色水遊びは親しみやすい遊びで、興味・関心が持てる活動だった。

環境・教材の工夫：初めて遊ぶ子もいる中、材料や道具がどのこどもにも行き渡るように、適当な用意がされていたので、興味・関心がそれずに、楽しむことができた。

一緒に活動：基本的に個々に楽しむ遊びであるが、グループで色水遊びをすることで、そばにいる友達の遊ぶ姿を見たり、やり方を聞いたりして、自分の遊びに取り込む姿が見られた。気付いたことについての伝え合いは、それぞれが思う存分楽しめたので、グループでも全体でも、集中が途切れることなく、話を聞いていた。

関わり：1回目は、グループを意識できるような言葉がけを、2回目は気付きにつながる言葉がけをされることで、他園校の友達に関わったり、気付きを広げたりしていた。

「学びを深める 学びをつなぐ」保幼小架け橋活動を紹介します！

さくらこども園、ひばり幼稚園、森の子ら幼稚園、倉梯第二小学校 架け橋活動で期待するこどもの姿

5歳児：相手の思いや考えを言葉にして話し合ったり、協力したりして、活動することを楽しむ。

1年生：自分の考えを持ち、発見したことを言葉にして伝え合いながら活動することを楽しむ。

1回目

さくらこども園、ひばり幼稚園、森の子ら幼稚園、倉梯第二小学校の架け橋活動は、こども達の興味や関心のある遊びを話す中で、鬼ごっこを楽しんでいることや、夏にキャンプをするのでその取組を始めていることなどを話されたことをきっかけに、1回目は、キャンプのイメージを持ち、キャンプで自分は何をしたいのかを相談し、2回目に、「キャンプをしよう」に取り組もうと、計画されました。

まずは、みんながしたことがある遊びを思い切り体を動かしながらして、仲良くなれるといいなと、こども達に何鬼ごっこがしたいのかをたずねながら、出てきた意見をもとに鬼ごっこを決めてしようと相談されました。

1回目は、グラウンドに集まり、さっそくみんなで遊びたいことをたずねられ、「ふえおに」をすることに決まりました。広いグラウンドでしたが、どんどん増える鬼から逃げようと必死に走ったり、挟み打ちのように追いかけたりしながら、最後には全員が鬼になりました。

次は、こどもたちの意見を聞きながら、バナナ鬼、氷鬼をして、楽しみました。



そして、体育館へ。キャンプで遊ぶ様子の写真を見せながら紹介され、みんなで「キャンプをしよう」と話がまとまりました。

1年生が色グループの画用紙を用意して声をかけてくれ、グループに分かれます。集まって、好きなものを一つ言い合って、そこからグループの名前を相談しようと計画されました。しかし、すぐに言えない子もいたので、事後の振り返りでは、動物や果物など好きなもののカテゴリーを決めておくとかかったかも…と意見が出されました。

こども達は、「テントをつくってねたい」「バーベキューをしたい」「マシュマロをやきたい」「かわでさかなつりをしたい」「キャンプファイヤーをしたい」とキャンプで自分のしたいことをそれぞれに伝える姿が見られました。

あるグループでは、こんなことをしたいと話が出たことを、色画用紙に進んでメモする1年生の姿が見られました。

したいことに向けて、各園校でどんなものを用意すればよいかなどを相談し、準備物を持って7月に集まろうと確認して終わりました。



2回目

暑い中でしたが、風通しをよくしてもらった体育館で、熱中症に気をつけながら、「キャンプをしよう」に取り組みました。

夏にする架け橋活動として、大掛かりなものをすることになったので、自己発揮できるかな、協力できるかな、時間内にできるかな、と心配していましたが、大きな段ボールや筒、ガムテープなどのよい環境と、こどもたちの意欲で、自分たちのしたかったことができ、とても楽しい活動になり、それぞれに満足したようでした。

作る過程で、グループ内でたくさん考えを伝え合うこともできました。

ちょうどよい長さの筒が4本なくて、テントの脚が揃わず、箱を積んで何度も長さを調整したり、グラグラになるところをしっかりさせようと添え木のアイデアを出したりする姿が見られました。どのグループでも、「こうしたら、こうなるのでは」と、アイデアを出して取り組む姿や何度も試す姿が見られ、やっとできた時には、本当に嬉しそうでした。



「このテントが…」と、
テントのところにいき、
よさを伝えていました。

できた頃に、半分ずつのグループに分かれ見て回り、他のグループの工夫したよいところを紹介しました。他のグループのよいところを伝える姿も、その気づきを聞こうとする姿も見られ、みんなで一緒に楽しめた満足感が感じられました。

片付けの仕上げは、1年生と保育者・教師で行いましたが、1年生が自分で考えて片付けをしたり、最後までやり抜いたりする姿が、とても素晴らしかったです。

各園は、作った製作から選んで持ち帰り、園で遊びを広げられました。



グッドポイント

興味・関心：鬼ごっこは、5歳児も1年生も親しんでいる遊びであり、またその場でこども達のしたいことを引き出しながら一緒に考え、すすめることができた。「キャンプをしよう」でも実際にキャンプやキャンプファイヤーをしている園があり、その紹介を少し入れることで、興味・関心をいかし、引き出すことができた。

環境・教材の工夫：2園でされたキャンプの様子を写真で紹介されたことで、キャンプのイメージが広がった。こども達が話し合いのときにも、写真を見に行く姿が見られた。大きな段ボールを準備されたことで、テントを作るときのイメージが持て、また、自然と協力する姿につながった。

一緒に活動：最後に他のグループを見に行くことにより、グループの工夫やよさに気づくことができた。また計画した1回目から2回目までの準備期間にそれぞれの園校で材料を集めるなどに取り組んだことで、こども達に見通しを持て、意欲が高まった。

関わり：こどもが困っていることに共感しながら、考えを促すような言葉がけをすることで、こども達がアイデアを出して作っていた。